一 般 質 問 通 告 書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和7年2月14日

多摩市議会議員 岩崎 みなこ

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

質問項目

- 1 リニューアル後のグリーンライブセンターについて
- 2 まちづくりを尾根幹線沿線の唐木田地区から考える

答弁者

市長・教育長等

受 付	令和7年2月14日	No.20
	午前10時40分	

1. リニューアル後のグリーンライブセンターについて

現在、まだ、入園はかありませんが、近くに行くと遊具など見れる中央公園の4月のオープンを、市民は楽しみにしていると感じます。一方、一昨年7月にオープンした公園西側の中央図書館はいつ行っても年齢問わず多くの人に利用されており中央公園も同じように、市民に愛されるのではと感じます。

さて、中央公園がオープンするのと同時期4月、公園東側で長年みどりを愛する市民が集い愛してきた改修中のグリーンライブセンターですが、多摩市ホームページでは、改修工事のため一時閉園していますがリニューアルオープンする予定と掲載しています。それを見て、新たなステージの幕が開くのを心待ちにされている市民の方も多いことでしょう。

又、コロナ禍を経て市民の生活がなんとか落ち着き出したとはいえ、近年の物価高に暮らしは楽ではないと感じている多くの市民にとって、無償で利用可能な、図書館、公園、グリーンライブセンターが一体的にオープンすることは嬉しい事なのではないでしょうか。

そのことを踏まえ、グリーンライブセンターについてお聞きします。

- (1) ホームページではプロポーザルの最終結果が公開されています。このように、受託候補者と次席者双方の事業者名や合計点数を公開していますが、例えば「多摩市再生可能エネルギービジョン策定支援業務委託」のプロポーザル選定結果についてのような詳細の結果が添付されておりました。事業者名が公開されているのであれば、なおのこと、内訳を公開しないことは、公募頂いた事業者の名誉のためにも、次席の事業者の納得感も得られないのではと危惧しますが、なぜ、点数の内訳の報告書を掲載してないのでしょうか？ご認識を伺います。
- (2) 議会への誠実な情報公開という点でお聞きしますが、プロポーザルについて、9月議会の生活環境常任委員会において協議会案件13において、グリーンライブセンターの改修後の運営体制について報告しています。しかし、公募型プロポーザルの最終報告のホームページの掲載は12月25日付ですが、12月議会の生活環境常任委員会では特に経過報告がありませんでした。このプロポーザルの結果はいつの時点で決定したのでしょうか。

- (3) 2024年9月議会の補正予算の際、グリーンライブセンター改修後について、みどりの拠点から環境の拠点という形で大きく一歩進めていきたいと答弁しています。一方、生活環境常任委員会の協議会資料によると、恵泉が培ってきた「園芸・緑化」に関する業務に加えてとあります。全く新しくというより、今までの蓄積を大事にしたい。その上で、ということでのいいのでしょうか。ご見解をお聞きします。
- (4) 恵泉大学さんの閉学は2年後です。新体制になるとしても、大学や大学関係者との関係性を今まで同様、継続すべきと思うのですが、ご見解をお聞きします。又、例えば、学校によっては閉学する際、蔵書など廃棄されることがあるそうですが、社会的財産ともいえる恵泉さんの専門の書籍などについてコミュニケーションをとることなどを要望しますが、いかがでしょうか。
- (5) グリーンライブセンターが環境の拠点になる取り組みに繋がると感じますが、2月5日のたま広報において、「生物多様性を守るためには、まず地域の自然を調べるのが重要です」として、昨年4月に結成した「多摩市生きもの調査隊」によるスマホアプリ、iNaturalist を使った市内の生きもの調査について掲載しています。36000件もの情報があり12月末時点では1500種を超えたようですが、その素晴らしい市民による成果から市が果たすべき役割について具体的な道筋をお聞きします。

2. まちづくりを尾根幹線沿線の唐木田地区から考える

第40回多摩市政世論調査報告書によれば、多摩市を選んだ理由の1位が「緑が多く、空気がきれいだから」で複数回答ですが、4割近い状況です。この結果は例年変わっていません。このことから、多くの市民は、多摩市は、変わらず豊かな緑ときれいな空気のまちだと信じ、住み始めているのではないのでしょうか。しかし、緑多ききれいな空気の住環境と思って住んだが何年か経つ間に、もし、周囲の住環境が変わってしまったらどうしたらいいのでしょうか。市は、そのようなことなるべくおきないようなまちづくりを進める責任があるのではないのでしょうか。

昨年の9月議会でデータセンターについて取り上げました。その際、市に税金をもたらしてくれる大切な市民であるとしても、CO2排出や排熱の

視点をもち、企業とは対等なパートナー関係として、コミュニケーションを取ることが重要であると質しました。

その後、議会の質疑を知った市民の方から連絡を頂き、工事の音、景観、日照時間といった問題や親しみやすい商業施設などと異なることなどを教えて頂きました。唐木田地域の尾根幹線沿いの新たな建設について、お近くの住民が困られていないか聞いてみてはどうかとアドバイスも頂きました。その後、実際に尋ねたところ、工事の音がひどかったこと、夫が精神的に参ったこと、工事業者に直接かけあったこと、どうせ、何を言っても仕方ないと思っていることなど、様々なお声を頂くことが出来ました。

そのことを踏まえ、以下質問します。

- (1) 工事音や振動に対し、住民の方は一人で耐えたり、言ったりしている実態がありました。市に言う発想はなかったとも言っていましたが、市に工事の苦情を訴えた市民の声があったのかお聞きします。今後、建設工事等に際し、市は、住民に何かあれば遠慮せずご連絡を下さいなどの投げかけはすべきではないでしょうか。
- (2) 事業者は説明会を1度したそうですが、住民は専門家でないため、法律用語、建築要件など理解が難しかったそうです。専門家でない誰でもわかるような説明の仕方など合理的配慮の視点も含め事業者には市は働きかけていくべきではないでしょうか。
- (3) 建物の回りの植栽や非常時の電源確保の演習と思われる黒煙が発生していることも住民から聞きました。唐木田地区計画の目標には、良好な環境の住宅、周辺の自然と調和した新しい文化風土などと掲げられています。尾根幹線道路沿いの土地は唐木田の住民にとって南側に位置します。つまり、緑豊かな住環境が保障されると思って住み始めた市民がどうして？とってしまうとしたら、まちづくりを担い、地域住民を守る立場の市は事業者と常にコミュニケーションをとり上記のことなどについて確認する必要があるのではないのでしょうか。
- (4) とりわけデータセンターは、窓もほとんどないような建物で完成後、人の出入りがほとんどなくなる実態があります。完了検査後の地域住民の不安に向き合えるのは市しかいないと感じます。そして、未だ、尾根幹線沿いに空いた土地があります。地域住民の権利

として、住み始めた頃の景観、住み心地等が変わることに対し市はどのような対応を取るおつもりか伺います。

資料要求欄（資料要求がある場合は、以下に記入してください。）

- ① 多摩市立グリーンライブセンター運營業務委託審査結果。点数の内訳のわかるもの。
- ② 多摩市立グリーンライブセンター運營業務委託の際の仕様書
- ③ 以前、民間のドラッグストアなどが建てられていた尾根幹線の八王子市を含む土地の活用計画についてわかるもの。

一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和7年2月13日

多摩市議会議員 中島 律子

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

質問項目

- 1 学校給食の活用について
- 2 不登校児童生徒をもつ親へのサポートについて

答弁者

市長・教育長等

受付	令和7年2月13日	No.21
	午後4時40分	

1 学校給食の活用について

こども家庭庁の調査によると、令和6年5月時点で学童保育の登録児童数が過去最高の151万9952人になったことが明らかになりました。

従来の共働き家庭だけでなく、経済事情の悪化による新たな共働きの増加、また母子家庭や父子家庭の増加等により、放課後に1人で留守番をさせたくないというご家庭が増えたこと、また、子供達にとっては楽しみでもある夏休み、冬休み、春休みなど学校の長期休暇中においては、低学年の子どもを朝から夕方まで家の中に1人にしておくのは何かあったら心配だという保護者が多く、学童保育の必要性は今後もますます高まることが予想されます。

学童保育は今や働く親にとってはなくてはならない場所です。大人の見守りがあるため安心安全な場所であり、異年齢の友達と交流ができたり、また、長期休暇においては朝から預かってもらえることで規則正しい生活リズムを保てるなどのメリットもあります。しかしその反面、『これから一ヶ月半早起きしてお弁当をつくるかと思うと心が折れる』『こんな猛暑の中、朝作ったお弁当を昼に食べさせるということに安全面、衛生面を思うと不安しかない』など、長期休み（特に夏休み）に子どもを預ける保護者にとってお弁当作りの大変さが全国的に問題となっており、そのニーズに応えようと、長期休みの際に学童への給食提供を行っている自治体があります。確かに給食施設は投資額が高額な割に土日祝日に加え春休み、夏休み、冬休みは稼働していません。施設の有効活用という点と市民の皆様からも学童への昼食提供に関してのご要望があることから以下質問いたします。

- (1) 給食センターを学校の長期休暇中に稼働させることは物理的に可能なのでしょうか。稼働させるために問題となる点があれば伺います。
- (2) 学童保育を利用の保護者からのニーズが高い『夏休みにおける学童クラブへの昼食提供』については、都内では希望者にお弁当を業者に注文して配達してもらう形が多いようですが、八王子市では小学校給食調理室の調理機能の活用及び学校給食センターを活用した配送により、学校栄養士が栄養バランスを考えた献立で八王子産の食材を取り入れた温かくておいしい手作り昼食を学童保育所の児童へ提供する取り組みを行っています。2月11日の読売新聞の記事には立川市が市内40ヶ所で開設されている学童保育所で長期休業中に弁当を届ける配食サービスを始める方針を決めたという記事がありました。今年の夏休みからの導入を目指していて、保護者が弁当を用意する家事負担を減らし、猛暑で食中毒が発生する衛生管理面の不安を解消するのが狙いだそうで、利用料は一食500円前後を見込んでいるそうです。また、こども家庭庁成育局成育環境課が『放課後児童クラブの長期休業期間等における食事提供事例集』

という資料を作成しており、各地で行われている取組が紹介されていて大変参考になりました。子育て支援として数日でもいいので長期休暇において昼食提供ができると保護者の心身の負担軽減になると考えます。特に給食は栄養バランスにも優れ価格的にも利用しやすいためぜひとも多摩市でも検討いただきたいと思いますが見解をお伺いします。

(3) 学校以外の場所、たとえば福祉事業所や高齢者施設にも希望があれば給食を提供できるような仕組みを作れないかお伺いします。

(4) 不登校児童生徒の給食についてです。不登校児童生徒たちは給食を食べていません。給食を停止しているご家庭と停止していないご家庭があると思いますが、その割合についてお伺いします。

2 不登校児童生徒を持つ親へのサポートについて

文部科学省が公表した『問題行動・不登校調査』で、全国の小中学校で2023年度に学校を30日以上欠席した不登校の児童生徒は前年度から4万7434人(15.7%)増の34万6482人となり、過去最多を記録しました。不登校の増加は11年連続で、10年前と比較すると小学生は5.4倍、中学生は2.3倍増。不登校の内訳は小学校が13万370人(前年度比24.0%増)、中学校が21万6112人(同11.4%増)。児童生徒全体に占める割合は3.7%です。多摩市においても、ゆうかり教室や愛宕スペースの開設など様々な不登校対策を講じていますが、不登校対策は不登校児童生徒本人を対象にしたものになっているのが現状で、その不登校児童生徒の親に対する支援については残念ながら不足しています。私自身も我が子の不登校を経験してみて感じたことは、不登校問題は子どもだけではなくその親への支援も考えていかねばならないということ、我が子が不登校になっても1人で抱え込まなくても良い環境を整えておくことが必要と考え以下質問いたします。

(1) 不登校児童生徒を適切に支援していくためには家庭との連携が重要ですが、不登校児童生徒の支援においては家庭内で実質的に子どもと関わるのは母親であることが多く、その母親に対しての支援も大変重要だと考えます。保護者への支援ということに対しては以前も一般質問でお聞きしていますが、改めて保護者への支援についてどのように考えているのか、新たな取組みなど今後計画されている支援などがあれば伺います。

(2) 不登校の親を対象にした調査を定期的に行い、どんな支援が求められているか検討することが必要と考えますが、保護者の声を聞くなどの調査は行われているか伺います。

- (3) 不登校になった親がまず望むことは様々な情報を入手したいということです。不登校になった子どもの世話をしながら仕事や家事をこなす生活の中で必要な情報を調べることは容易ではありません。我が子にどんな支援があるのか、個人で調べるには限界があるのです。以前にも要望しましたが、不登校児童生徒が利用できる制度や居場所についての情報を民間のフリースクールなどの紹介も含め一覧表にして市のHPへ掲載していただきたいと思いますが市のお考えをお伺いします。
- (4) 不登校になった子どもの親は1人で悩む事が多いですが例えば同じ境遇の保護者と話す機会を設けることにより気持ちを吐き出し気持ちが軽くなっていったり、子どもに対する対応方法を学ぶ機会にもなります。親の居場所作りを積極的に行う事が結果として不登校児を持つ親支援の一助として有効であると考えます。令和6年5月の一般質問でゆうかり教室での保護者交流会についてお聞きしました。令和6年度は2回開催の予定とお聞きしましたが、それぞれの参加人数や、感想などがあればお聞きします。

一 般 質 問 通 告 書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和7年2月14日

多摩市議会議員 いいじま 文彦

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

質問項目

1 「楽しい防災」「おいしい防災」

2 人口減少時代とニュータウン再生

答弁者

市長・教育長等

受 付	令和7年2月14日	No. 2 2
	午前11時51分	

項目別質問内容

1 「楽しい防災」「おいしい防災」
我が国は、地震や台風など災害の多い国です。そのため、私たちは、防災に関連した知識や技能を習得しておくことが重要になります。
令和元年に台風19号が関東地方を縦断した時、多摩川の河川敷が全て冠水した光景を見た衝撃は忘れられません。また、我が国は言うまでもなく4つのプレートに囲まれ、しばしば大きな地震や津波が発生する地域であるうえ、平成23年に起こった東日本大震災以降、我が国は地殻の変動期に入ったと言われています。そのため、今後発生が予測される首都直下地震や南海トラフ地震をはじめとする内陸地震がいつ起きてもおかしくない状態にあります。
このような災害と隣り合わせである我が国に住む私たちは、皆が一人一人、自然災害に対する関心を持ち、いま何を準備すべきか、どのような組織を構築すべきか、若い世代に何を教育すべきか等、考えていかねばなりません。
しかし、それは分かっているながらも行動に移すことができている方々も少なくないように見受けられます。今回、多摩市が全世帯に携帯トイレを配布したことは市民の方々に防災を意識してもらおう一助となったと思います。これを機に、更に多くの方々が防災・減災に取り組んでいただくにはどうしたらよいか、という視点を持ちながら、以下、質問します。
(1) 今後発生が予測される首都直下地震、南海トラフ地震が発生した場合の被害想定は各々どのようなものでしょうか。
(2) 多くの施設等で避難訓練や防災訓練が実施されていますが、参加者が少ない、内容がマンネリ化して飽きを感じてしまっている、といった課題を聞くことがあります。そのため、訓練等に義務的に参加するのではなく、積極的に参加する気になれるような「楽しい防災」を実践してみようとの声がありますが、どのように考えますか。また、多摩市内の防災への取り組みで「楽しい防災」となっているようなものがあれば教えてください。
(3) 防災訓練等で、ローリングストック法によって以前に購入した非常食を参加者に配るようなことがあります。そこで、非常食を美味しいものとし、是非欲しい、食べたい、或いはその場で皆で食べて楽しもう、といったことで訓練への参加者を増やすような「おいしい防災」に取り組むというのも一案かと思いますが、如何でしょうか。
(4) 皆が防災に関する知識、技能を習得するという点では、通常の避難訓練や防災訓練に参加できない高齢者、障がい者、病者等の災害弱者の方々に対して、多摩市として、どのような支援ができるでしょうか。このような

項目別質問内容

<p>方々こそ、一人一人避難時にどのようなケアや器具・資材が要るのが異なり訓練を実践しておく必要があると思うのですが、如何でしょうか。</p>
<p>(5) 学校教育の場で、防災に関する知識、技能に関する教育はどのように実施されているのでしょうか。また、児童・生徒が主体的に学びたいとなるような「楽しい防災」教育の実践例があればお教えてください。</p>
<p>(6) その他、防災に関連する事柄を幾つかお伺いします。</p>
<p>① 多摩市内の小中学校では防災頭巾を椅子に備えているのを見かけますが、中学校では見受けられないように思います。市内の中学校では、生徒用の防災用ヘルメット等は教室に用意されているのでしょうか。</p>
<p>② 狛江市は、8年ほど前から、健康増進に関する協定を締結している企業と連携して、小学校にバランス栄養食や飲料の自動販売機を設置し、災害時には児童に自動販売機内の食料や飲料を無償提供していただけることになっています。多摩市でも避難所となる小・中学校や体育館で、同様なことを実施できないのでしょうか。ウォーターサーバー等の設置でも良いと思うのですが、如何でしょうか。</p>
<p>③ 水害時を想定して、遠方への避難訓練が行われるようになりましたが、そもそも多摩川が氾濫しないような治水策は確立されているのでしょうか。以前、スーパー堤防並みになるとの話も聞きましたが、土手補強や川底浚渫といった洪水防止策は講じられているのか、お伺いします。</p>
<p>④ 我が国に住む以上、私たちは災害と隣り合わせであり、防災はどの地域にとっても生命の安全・安心に関する重要課題です。現在、協創推進室が進める地域コミュニティづくりの中に、福祉、教育、環境などと並んで、防災の視点も入れてほしいと思いますが、如何でしょうか。</p>
<p>2 人口減少時代とニュータウン再生</p>
<p>平成25年10月に諏訪2丁目住宅の大規模建替事業が竣工して以来、多摩ニュータウンの再生が徐々に進んでいることは喜ばしいことです。</p>
<p>ただ一方で、人口減少時代の中、新しい高層住宅を建てることは、何れは空き部屋が多くなる可能性がある、何れは再度の大規模修繕が必要になる等、将来の課題を孕んでいると思います。</p>
<p>この課題に対して、どう立ち向かうか、多摩市としての方向性をお伺いします。また、東京都やUR都市機構、東京都住宅供給公社とは、どのような話をしているのか、お聞かせください。</p>

一般質問通告書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和7年2月13日

多摩市議会議員 おにつか こそえ

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

質問項目

- 1 ひとり親家庭支援について
- 2 新一年生プレクラス導入について

答弁者

市長・教育長等

受付	令和7年2月13日	No.24
	午前11時27分	

1 ひとり親家庭支援について

ひとり親家庭(シングルペアレントファミリー)は様々な課題に直面します。

1人の収入のため経済的に余裕がなく、仕事と子育てを両立させる為に子供とのコミュニケーションや教育に十分時間が取れず、また、子育てや経済的な問題から孤立感など不安を感じることも多いため、ひとり親家庭に対する支援はきめ細やかな、個々の状況にあった精神的物理的な支援が必要です。

昨年7月、他市で児童虐待ホットラインに電話をかけた5歳の子を育てるシングルファーザーは、心中を考えている旨伝え子供を預かって欲しいと相談した。一度電話を切った職員が改めて電話をかけたが、もういいと切られた。何度かけても出なかった。高齢の親にも断られ心中を回った。生活保護も受け、死の直前までSOSを発信していた父親と5歳の子の命をなぜ救えなかったのか?とても苦しく深く考えさせられた。ひとり親家庭には精神的な支援支えが特に必要と感じます。

上記を踏まえてひとり親家庭支援について質問致します。

- ① 多摩市ひとり親家庭の会「ほほえみ」に参加されているひとり親家庭は何世帯でしょうか?お伺いします。
- ② 子ども・若者政策課へのひとり親家庭相談は(要電話予約)週に何件ぐらい予約は入りますか?お伺いします。
- ③ 多摩市では緊急に子供を預けたい場合どのような手段が有りますか?お伺い致します。
- ④ ひとり親家庭ホームヘルプサービスの利用状況をお伺います。

2 新一年生プレクラス導入について

小学校においては架け橋期(5歳から小学校1年生)の実効性を高める為にも、小学校入学当初のスタートカリキュラムの充実を図ることが必要です。スタートカリキュラムの充実を図るためには、児童がこれまで体験していることを理解する事や、児童の意思を尊重する事が重要です。

先日、お話を伺った港区教育委員会の説明では、令和3年度から2校でプレクラス制度を導入開始し、大きな問題は見られなかった為、今年

度からは全校でスタート。1ヶ月程度のプレクラス（仮の学級）期間中は学級担任を固定せず複数の教員が関わり、幼稚園、保育園など様々な環境から入学してくる子供たちの実態把握に努める事ができ、子供たちは複数の教員と関わることで年間を通して担任以外の教員とコミュニケーションを取ることができる。困った時には担任以外にも相談しやすい体制となり、慣れてない若手教員の育成や負担軽減にもつながり、教員不足で若手教員が増えていることもきっかけにあるとお聞きしました。

新一年生は期待と不安がいっぱい。1ヶ月複数の教員に見守られ、複数の先生の授業を受けられる事は、子どもたちにも先生にとっても良い1ヶ月だと思いました。

上記を踏まえてご質問致します。

- ① 新一年生の担任は負担が大きいと思いますが、どの様な基準で担任を決めていますか？お伺い致します。
- ② 様々な環境から入学してくる子供たちに特に気をつけて対応していることは有りますか？お伺い致します。
- ③ 担任の変更は1年毎でしょうか？2年毎でしょうか？お伺い致します。
- ④ プレクラスを導入する上で問題点はどの様な事が考えられますか？お伺い致します。

資料要求欄（資料要求がある場合は、以下に記入してください。）

- ① 多摩市のひとり親家庭の世帯数(母子、父子の内訳)